



女令川教訓序



婦人 賢方 たるを

夫如まればすかまらば
 是くろふものたりなま
 上のどもを中よりふさ
 けしうるはまをまき
 かつくはまをまき
 ののまをまきまきまき
 うちのまをまきまきまき
 けむあはれやうにまきま
 たちあふまきまきまき
 まきまきまきまきまき



人々のあはれをまきまき
 まきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまき

女おんな今川教訓おんが

目かえり遠くもあはれ
 ねはけ白あはれに改め
 あはれに上るものねを

世に古くはまきまき
 種ものまきまきまき
 写すものねをまきまき
 まきまきまきまきまき

五曜文庫

女今川教訓席



おちほはたてくつゝ女
乃まふくけくけくま
くまふくけくけくま
おとほはたてくつゝ女
乃まふくけくけくま



時宜乃
仕様

きやくにゆたきつゝ女
乃まふくけくけくま
くまふくけくけくま
おとほはたてくつゝ女
乃まふくけくけくま

窓のまろえ



おちほはたてくつゝ女
乃まふくけくけくま
くまふくけくけくま
おとほはたてくつゝ女
乃まふくけくけくま



今月ふた戌て月

とまじ書洞書

一帯れんがくあへ

女おんたのりくから夏

一帯れんがくあへ

あはれ書

一帯れんがくあへ

あはれ書

一帯れんがくあへ

あはれ書

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る
 孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る



孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る



又前向之事

〇三月三日 上巳
 〇三月三日 上巳

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る

孝乃之跡は成る
 父母は世に思ふ
 一史は成る

さうばきやうくくくくく
作りわそびたわらわら
みなり

○八月の月 燈籠
わやきのせろくくくく
ゆやきのせろくくくく
門戸をかきまら年中の
トまきまきくくくく

○七月七日 七夕
たるまのせつくとまは
けんきうあうくくくく
あうゆのけくくくく
いとまられくくくく
くけまけくくくく

○九月九日 重陽
きくかおのせろくくく
ゆくくくくくくく
てろけんくくくく
ゆひくくくくく
くくくくくくく

○玄備のす かんぢ
十月初めのまの目くく
るのくくくく

きくくくくくく
ゆくくくくくく
あやうくくくく
そくくくく
○又のくくく
子成ゆくくく
かたひくくく
けせろくくく
ひくくく



見物とすれは
る
ら
る
る

一 燈籠めく 燈籠の
る
る
る

一 婦若利根
る
る
る

一 万事
る
る
る

一人
る
る
る

一 家
る
る
る

一 夢
る
る
る

一 友
る
る
る

一 花
る
る
る

一 草
る
る
る

假名遣の大抵

かまておとあにかなは
ういとのあさるるひり
似と音とのまうら成
日修年一
刻といふこと
聖月花といひ
聖月花といふ
音のあつた
これらのはひるまうら
あつた
○あつたのはひるまうら
大空かから南
真心のあつた
中浦のあつた
後
聖月花といふ
西のあつた
これらのはひるまうら

○中のを成あつた
小倉山
徳信橋
少長
ひ女
新
○中のを成あつた
○中のを成あつた
海
泥
命
布妻
紅
魂
玉の井
胸
名

下
人
智
山
云

下
人
智
山
云

益 あり 推 あり
水 あり 吹 あり
煙 あり あり
○ 奥のまじりにある
智恵 あり 米 あり
海 あり 巴 あり
指 あり 押 あり
礎 あり 辺 あり
鴉 あり 贊 あり
○ 中れえむは出る
甲 あり 松 あり
斧柄 あり 何 あり
白衣 あり 笛 あり
杖 あり 漆 あり
鶴 あり 轆 あり
○ 中のえむに書
これをおたふ
えとふ

肥 あり 噴 あり
消 あり 火 あり
萌 あり 金 あり
植 あり 強 あり
○ おんていこまの
款 あり 庵 あり
叢 あり 竿 あり
笑 あり 藤 あり
○ 日の字をたはす
三輪 あり 岩 あり
世話 あり 粟 あり
喜 あり 川 あり
○ いとひの
甘 あり 路 あり
辛 あり 湯 あり
嬉 あり 使 あり
り あり
あり

一 男 姑 杖 あり
一 法 在 清 あり
一 夢 京 疎 あり 地 人
一 男 娘 雅 潤 あり
一 君 嘲 あり 心 あり
一 男 娘 雅 潤 あり

一 道 城 あり 人 あり
一 男 娘 あり 友 あり
一 水 あり あり

- 掃ハらうとかく 毎ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく
- 掃ハらうとかく

一人来る時が不機嫌
 始めはもう皆いふや
 奴らにけりまの度
 右の陣はさふんは
 うけらるる陣さうしつ

茶食物食合

- ひろに 三門地
○ さむらひ ちせき
○ さむらひ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき
○ ひらこ ちせき

一人来る時が不機嫌
 始めはもう皆いふや
 奴らにけりまの度
 右の陣はさふんは
 うけらるる陣さうしつ

○ 掃とかなんげの...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...

茶食物毒消

○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...
 ○ ちりこころ...



立派な...
 陽...
 和...
 女...
 比...
 比...
 比...

湯...
 然...
 姉...
 夫...
 夫...

○女のまにちうとまじら
 こらよハモもねがほそら
 ずはそらととてまの油
 あくとさきまうつはし
 そのまうおけはくハの内
 よりかうらうらひの
 がるまの○女のまゝはひ
 わさきさハ八月中まら
 のるゐのととさうて金
 おくく一又のけさみ
 花のくげりせまも
 ー○まをれく
 しハ新の目をあけ
 とうはゆめよかたそ
 わらさー○へびの
 まのちんぐりさ
 どのさたととちさうて
 さんーやうらうとさうて
 ーいふのくさく
 おけを物のまはとねけ
 けてしねくべうさ

一ノ実
 女
 一ノ実
 女
 一ノ実
 女



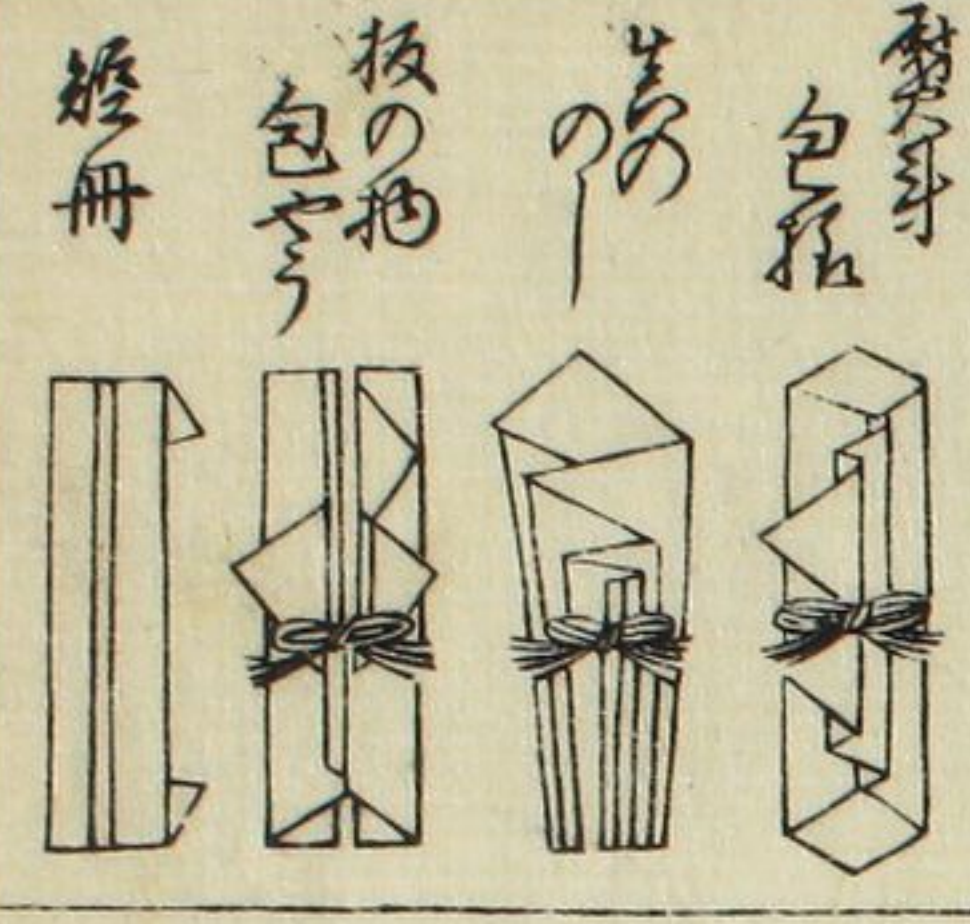
一ノ実
 女
 一ノ実
 女
 一ノ実
 女

巾着よりうしろをかく
ゆるいさぎやくのあ
せくあの人をこそうつ
ろひおのりなり一ねど
物くもつひをぬしすち
上らうぬらうなり一あ
ぬ人の一えんぶちぢら
らうくまわらうするた
らう一さきばきこら
しと一せごぬか一よ
ふさうく一あつちん
こん一そのさぢさぢ
のひさし一そのさぢさ
ぢさうり一よあぢらう
さうぢさうとらう中
はさうく一そのさ
めく一あはははとれ
く一そのさぢさうり
のさうらば一その
舞のそとまわらう
もまごつ一そのさ
九なるなりさうら

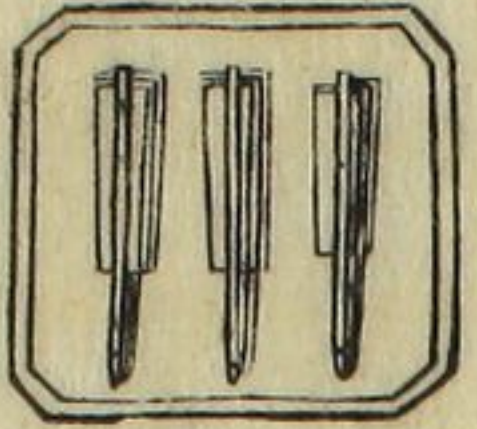
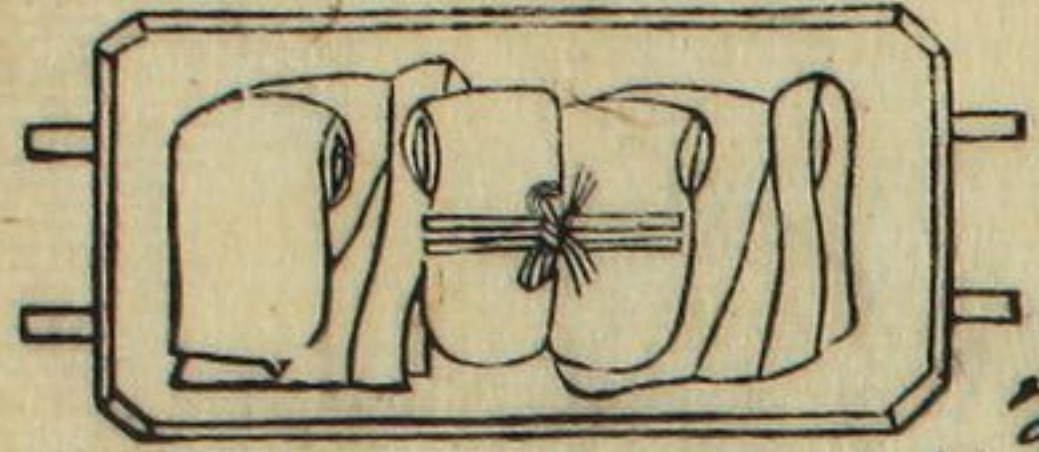
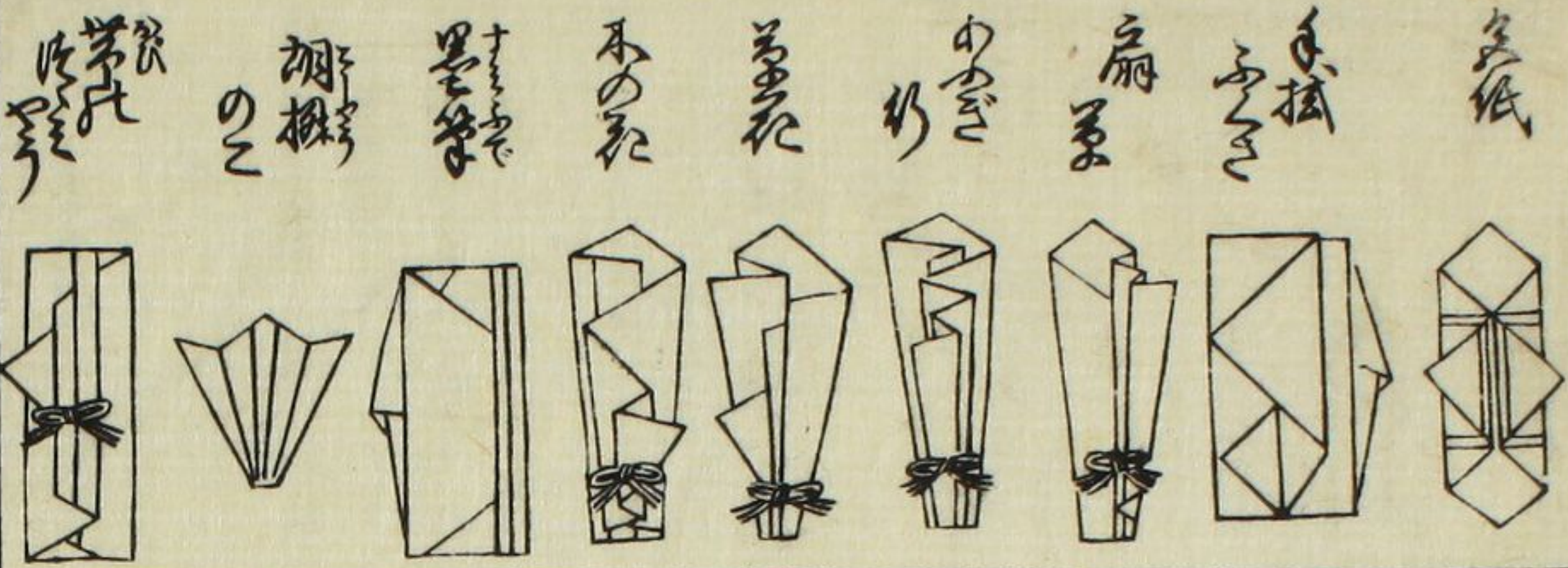
心かつ事く
とけららに
小酒一男子
師しもあましとじ
くらに
ひさし
きん

物ささうのめつ
みさののり一その
はらふ一そのさ
すち上らうさうら
しそのさぢさうり
まちり一そのさ
うさうら一そのさ
ゆららららららら
ゆららららららら
そのさらこれとさ
一そのさ男より
とさささハささ

葉包採折形



まもる女
しん女
ゆらららら
ゆらららら
ゆらららら
ゆらららら
ゆらららら

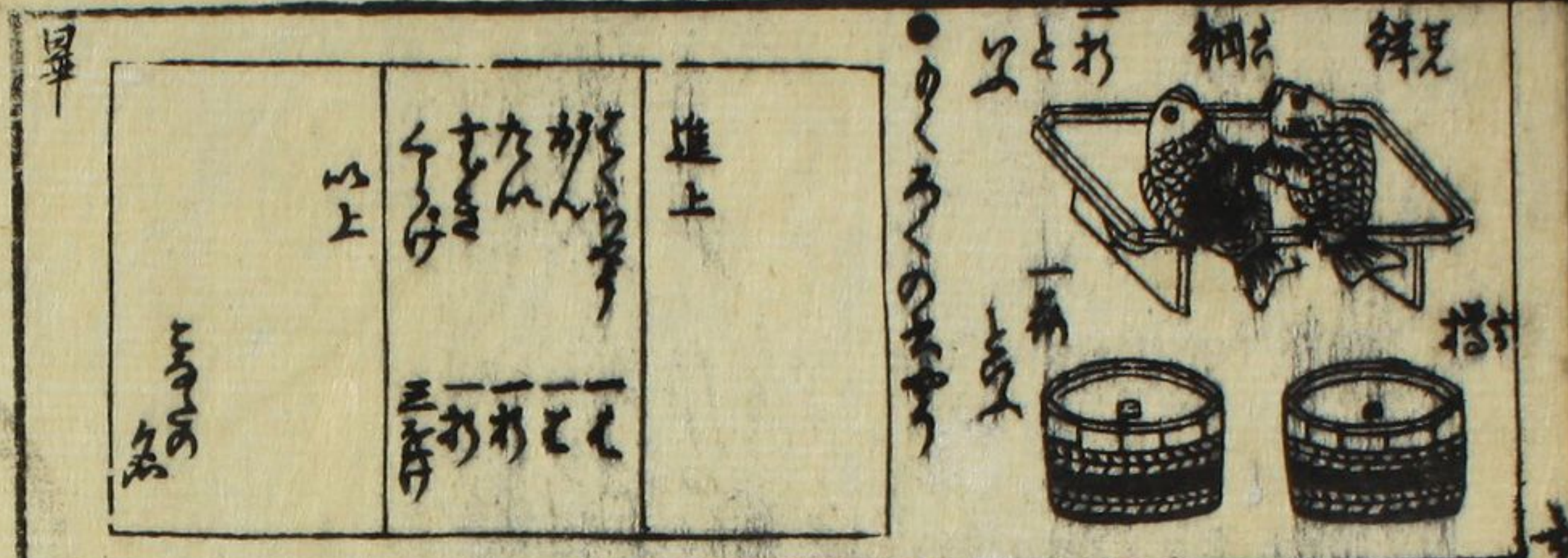


お礼状の書き方

●お礼状の書き方 少くも
 左折りの方をした上
 ●お礼状の書き方 少くも
 左折りの方をした上

此を父母の
 御事
 御事
 御事
 御事
 御事
 御事

御事
 御事
 御事
 御事
 御事
 御事



御用御書物所
御用御書物所
御用御書物所
御用御書物所
御用御書物所

妙り出し	山角丸	珠全錠	萬病定散	玉屑玉水
式馬の馬	珠全錠	丸一	丸一	丸一
丸一	丸一	丸一	丸一	丸一
丸一	丸一	丸一	丸一	丸一
丸一	丸一	丸一	丸一	丸一

齋藤八四郎



5800

